



1 沿革と地域

(1) 沿革

明治	6.	7.	17	西方学校の友田分校として友田村妙照寺に開校
	19.	9.	27	「公立正心尋常小学校」と改称 現在地に校舎新築
	21.	6.		「吉沢尋常小学校」と改称
	22.			「河城尋常小学校」と改称
	25.	2.		「河城村立河城尋常高等小学校」と改称
昭和	16.	4.	1	「河城村立国民学校」と改称
	22.	4.	1	「河城村立河城小学校」と改称
	33.	3.	31	町村合併により「菊川町立河城小学校」と校名変更
	40.	9.	27	新館鉄筋3階建校舎完成
	59.	11.	12	新校舎落成
	63.	9.	7	「河城小100年誌」発行
平成元		3.	17	飼育場完成
	2.	3.	4	グラウンドかさ上げ工事
	6.	2.	17	招魂山フェンス設置
	10.	11.	2	わくわくおもちゃハウスオープン
	16.	12.	25	「河城名所・人物100選」発行
	17.	1.	17	小笠町、菊川町の合併により「菊川市立河城小学校」と校名変更
	24.	9.	16	河城地区敬老会において「御神楽」披露
	27.	11.	26	平成26・27年度市教育委員会指定「ICT活用授業研究発表会」
	28.	10.	24	コンビネーションクライム設置
令和元		6.		普通教室 エアコン設置
	2.	3.	3	新型コロナウイルス感染拡大のため全国一斉休校(～3/19)
		4.	7	新型コロナウイルス感染拡大のため全国一斉休校(～5/24)
	3.	4.		全児童に一人一台タブレットを配布(3年生以上持ち帰り)

(2) 地域

菊川市北東部に位置し、東側は牧之原市、北側は島田市と接する。学区の中央を東西にJR東海道本線、主要地方道吉田・大東線が走り、一級河川「菊川」の源となる山々が学区北側にそびえている。

牧之原台地に続く傾斜地には茶園が広がり、生葉の収穫から製茶まで行う大規模な茶農家が多い。かつては旧河城村を母体とした静かな農村地帯であったが、学区の西南部に新興住宅地ができてからは、保護者の職業も会社勤めが多くなってきている。

明治22年の開校以来130年以上の歴史をもつ本校学区では、河城地区センターを中心として青少年健全育成会議や種々の地区行事が実施され、地域で子どもたちを育てていこうとする気運が強く感じられる。

また、学校ボランティアによる環境整備の活動など、学校の教育活動に協力的な方々が多く、学校行事や地域学習等の展開において大きな財産となっている。

地区は、上倉沢、下倉沢、友田、東富田、西富田、吉沢、沢水加、和田、潮海寺上、潮海寺中、潮海寺下、上本所、虹の丘・富士見台からなっている。

2 実態(強みと弱み)

(1) 児童の実態

<強み>

- ・ 純粋(純朴)で素直。一生懸命に取り組める。
- ・ 人なつっこい(おしゃべり好き・人見知りしない・明るく屈託のない)。
- ・ 友達にやさしく、遊びのトラブルも少ない。
- ・ 男女の仲が良い。
- ・ 約束を守れる。ルールを守ることができる子が多い。
- ・ 決まっていることや与えられたものには真剣に取り組める。
- ・ 学習に向かう態度が身につけており、授業に集中できる。
- ・ 長距離を歩いてきているので体力があり、外で元気に遊ぶ子が多い。
- ・ 給食を残さず、よく食べる。 ・ 自然が好きな子が多い。

<弱み>

- ・ 精神的に弱く、嫌なことから逃げるなど耐性が弱い。
- ・ 自信がなく、壁に対して乗り越える力や気持ちが弱く、すぐに諦める。
- ・ 根気強さ、粘り強さに欠ける。
- ・ 言われたことはできるが、自分たちで考えて、それらを広げたり深めたりすることができない。自己判断力、決定力。
- ・ 「自分から」や「自分で課題を見つけ」が弱く、受け身である。主体性。
- ・ 教師や大人の考えや枠からはずれない。「大人の言うとおりに行う」「言われたら、実行する」という傾向が強い。
- ・ 答えが一つではない問いに対して自分の考えを表出できない。(諦めたり他人を頼ったりしてしまう。)
- ・ リーダー性のある子が少ない。
- ・ 相手意識が低く、そのため人に迷惑をかけたり不快にさせたりすることがある。
- ・ 基礎学力が身につけていない子が多く、学力が全体的に低い。書く力(聞く力、表現する力、類推する力)が弱い。
- ・ 特別な支援を要する子が多い。

(2) 運営面の実態(職員、保護者、地域)

<強み>

○職員

- ・児童、保護者を大事にし、信念を持って教育している。責任感がある。
- ・困っている人を見つけるとすぐに手を差し伸べる雰囲気がある。
- ・一つの方向に向かっていく力、協力体制がすばらしい。
- ・教職員数が20名程度であり、小回りがきき、周知もしやすい。

○保護者

- ・学校の活動に協力的な保護者が多い。
- ・人見知りせず、対等に接してくれる方が多い(気さくに話ができる)。
- ・学校のことをよく考えてくれている保護者が多く、お願いなども快く受け止めてくれる。
- ・参観懇談会や行事などへの参加率が高く、学校のことを気にしてくれる。
- ・家庭学習など子どもを見てくれている保護者が多い。

○地域

- ・伝統があり、地域性が強く、地域人材も豊富である。
- ・地元出身者が多く、地元へ愛着を感じている人が多いと感じる。
- ・核家族率が低く祖父母と生活している児童も多い。
- ・スクールガードなど地域が学校に対して非常に協力的で積極的に子どもたちに関わってくれる。

<弱み>

○職員

- ・職員数に余裕がなく、出張者が複数いた場合、学級支援など人手が足りなくなる。
- ・ベテランと若手教員が多く、中間層の職員が少ない。

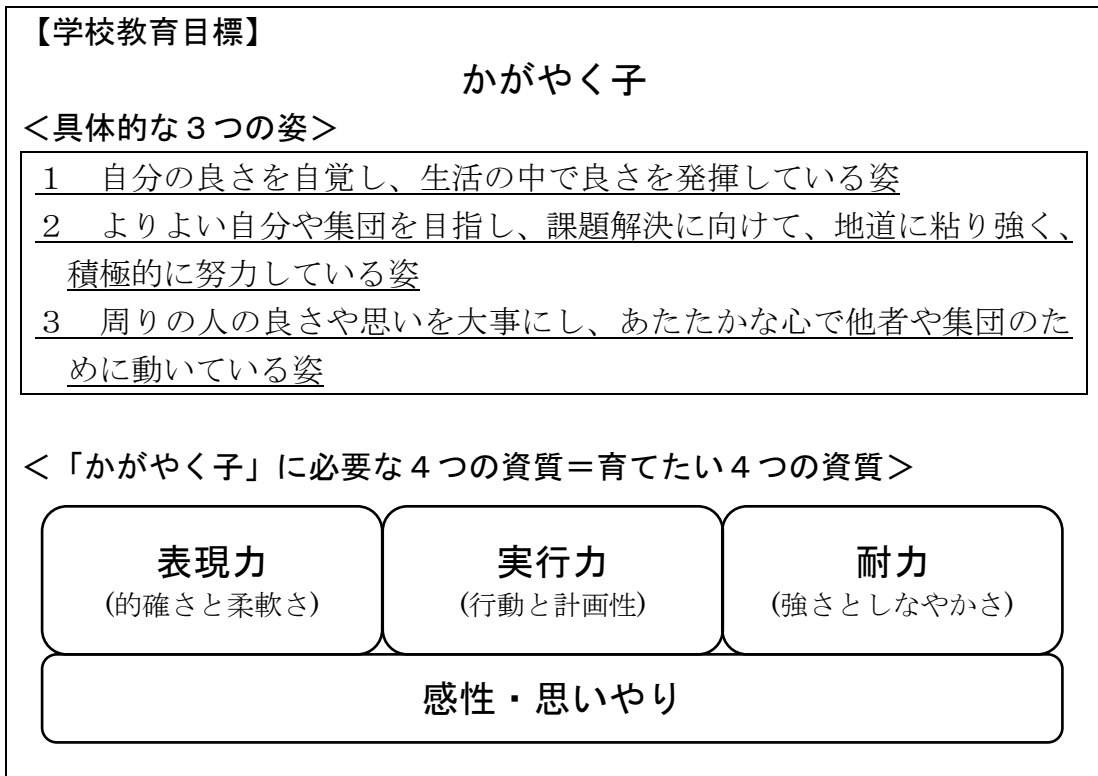
○保護者

- ・三世代家族が多いためか、子どもの失敗経験を避けたがる傾向があり、その結果、子どもを「鍛える」意識が低い。(厳しいこと・苦しいことに立ち向かわせようとせず、避けがちである。雨天での送迎も多い。)
- ・伝統がある地域であるためか、変化に弱い。「これまではこうだった」的

○地域

- ・伝統がある分、保守的であり、変化を受け入れがたい傾向がある。「河城は前からこうだから」という思いがある。)

3 学校教育目標(学校としてどのような教育をしていくか)



次の(1)(2)のことから、本校の教育で育てていく児童の姿を上記3つとし、それらの姿を「かがやく子」という象徴的な言葉で表し、学校教育目標とした。(学校教育目標「かがやく子」は、平成10年度より継続となる。)

また、「かがやく子」を育むために必要な資質を「表現力」「実行力」「耐力」「感性・思いやり」の4つと考え、授業や行事、係活動など学校生活の様々な場面において、育成を目指していく。

(1) 児童・地域の実態から

本校の児童は、「2実態」で述べたように、優しく素直な子が多い。3世代家族も多く、とても大事に育てられていることが影響していると思われる。また、地域の人たちも子供に積極的に関わってくれるため、人なつっこく、純朴な子が多い。

一方で、周りの大人が大事に手助けしてくれるためか、「言われたことはできるが、自分で考えて、それらを広げたり深めたりすることが苦手である」や「壁に対して乗り越える力や気持ちが弱く、すぐに諦めてしまったり人を頼ったりしてしまう」など受け身の姿勢や粘り強さが課題と言える。

このような特徴を持つ本校児童が社会の創り手として成長していくためには、「2(1)」の＜弱さ＞の克服が極めて大事と考える。周りの大人や仲間からの指示を待つのではなく、「よりよい自分やよりよい集団のイメージ(目標や願い)」をまずは自分でしっかりと持てること、そしてその実現に向け、また課題に対して地道に、積極的に努力できることを教育の柱として児

童を育てていく必要がある。

また、複雑な社会変化に対して乗り越えたり柔軟に対応したりするためには、本校児童の特徴である「人なつっこさ」や「優しさ」は大きな「強み」となる。1人では乗り越えられないことも、周りの人とよりよい関係を築きながら、協働して乗り越えていける。人との良好な関係を築けることは、協働のための大事な資質だと考える。学校教育において大事に育てていかなければならない。

(2) 予想される未来社会と国・県の目指す人間像、市の理念との関連から

子供たちが生きる未来社会は、国際的にも、国内的にも混沌とした非常に不透明な社会(予測不能な社会)であると言われる。そうした社会においては、自己の目標を見失ったり自己管理ができなかったりすることで主体性の喪失に陥りやすい。また、人との関わり合いに煩わしさを感じたり、他人と比較して自信を失ったりすることで、他者とのコミュニケーションを避けがちにもなり、さらには、自ら課題を発見し、必要な情報を探求し、解決していくという前向きな生き方も失われがちにもなる。

未来の予測不可能な社会を力強く、たくましく生き抜いていくためには、自分の良さを理解して一人一人が自立し、それを積極的に発揮しようとする精神を持っていることがとても大事となる。自分の良さを理解し、自分を愛せる人は、自分の周りの社会やこれからの未来が不安定であっても、自分の居場所や立ち位置をしっかりと見つけ、目標を作り出し、力強く自己を伸ばしていける。また、自分の利益だけを求めるのではなく、互いの個性や生き方を尊重し、あたたかな心で人のために尽くそうという精神を持っている人は、周りの人たちと良い人間関係を作り上げ、より良い社会づくり、環境づくりに貢献していける。一人では解決できないことや一人では乗り越えられない課題や状況に出会っても、自分の力を信じ、知恵を出し、周りの人と協働して乗り越えていくことができる。

国でも、そうした未来社会を鑑み、平成 28 年 12 月 21 日の中央教育審議会答申では、子供たちの育成に関わって次のような言葉がある。

社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となっており、どのような職業や人生を選択するかにかかわらず、全ての子供たちの生き方に影響するものとなっている。このような時代だからこそ、子供たちは、変化を前向きに受け止め、社会や人生を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしていくことが期待される。

いかに進化した人工知能でも、それが行っているのは与えられた目的の中での処理であるが、人間は、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え出すことができる。このために必要な力を成長の

中で育てているのが、人間の学習である。

子供たち一人一人が、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要である。 <下線：後藤付>

また、令和3年1月26日の中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』では、次のような言葉がある。

○ 人工知能 (AI)、ビッグデータ、Internet of Things (IoT)、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わる状況が生じつつある。

また、学習指導要領の改訂に関する「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28（2016）年12月21日中央教育審議会。以下「平成28年答申」という。）においても、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきたことが指摘されたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、その指摘が現実のものとなっている。

○ このように急激に変化する時代の中で、我が国の学校教育には、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。 <下線：後藤付>

これらのことから、「自分の良さや可能性を自覚し、それを發揮できること」「よりよい自分や集団づくりを目指し、課題解決に向けて粘り強く努力できること」は、予測不可能な未来社会を生き抜くための大事な資質と言える。また、人と協働して社会変化を乗り越えられるようになるためには、「周りの人の良さや思いを大事にし、あたたかな心で他者や集団のために尽力したりできること」でよりよい人間関係を築けることがまずは大事になると考える。

一方、静岡県が育成を目指す「有徳の人」においても、「自らの資質・能力を伸長し、個人として自立した人」「多様な生き方や価値観を認め、人との関わり合いを大切にする人」「社会の一員として、より良い社会づくりに参画し、行動する人」のことであり、国の教育の方向と同じくしている。

また、菊川市の教育計画においても、「共に生きる」「自らを拓く」「未来へ歩む」の3つを基本理念としており、これもまた国、県、本校で育てたい児童像と考えを一にしている。

4 重点目標(学校教育目標実現のために本年度重点とする目標)

【重点目標】

自分からかがやく 人のためにかがやく

学校教育目標「かがやく子」を育成するために、最も大切にしなければならないことは、児童個々が自分の良さを自覚することだと考えている。自分の良さの自覚は、「自分を愛する」ことにつながり、それは「人を愛し、他に尽くそうとする気持ち」の土台となる。自分自身をしっかりと理解し、小さなことであっても、自己の努力で得た成長を実感し、一つでも自分の中で「良さ」として思えるものがあれば、それを柱にして人は強く生きていける。「良さ」の自覚は、前向きな生き方の原動力にもなる。

このような考えのもと、令和元年度より重点目標を「自分からかがやく」とした。本校児童の強みは、「2(1)」にまとめたように、「人なつっこく、優しい」点である。しかしその一方で、「自信がなく、耐性や根気強さ、粘り強さ」が課題でもある。

そのような児童の実態を鑑みたとき、本年度は、「3」でのべた「3つの姿」に焦点を当て、学校生活の様々な場面において、「自分から」と「人のために」を意識させ、「3つの姿」の実現に向かって努力させることで、学校教育目標の実現を図っていききたい。そのためには児童が自ら判断したり、努力したり、悩んだり、考えて動いたりする場面や経験を意図的に仕組んでいききたい。そして、物事の結果が良かったときの姿だけでなく、より良い結果や状態を求める過程の、「工夫したり、必死に努力したり、弱い自分と戦ったりする姿」や「小さなことであっても、努力して成し遂げられたこと」などを価値づけることで、生涯にわたって自己を伸ばし続ける人として育てていききたい。

5 学校教育目標実現のための具体的な取組

学校教育目標実現のため、「自分からかがやく 人のためにかがやく」を重点目標とし、1年間を5つのステージ(「輝」)に分け、それぞれの時期のねらい(テーマ)を明確にし、全員が同じテーマを意識して成長できるようにする。

ステージ	テーマ	ねらい
1輝	自分から つくろう	今の自分を確かめ、1年後の自分を描き、一年間の基盤をつくる。
2輝	人のために 動こう	相手や集団のことを考え、人のために行動する。
3輝	自分から 挑戦しよう	今の自分を更に成長させるために挑戦する。
4輝	みんな で 高めあおう	よりよい自分、よりよい集団づくりを目指して自分ができることを考え取り組む。

5輝	成長を確かめ 感謝しよう	自分や周りの人、集団の成長を互いに認め合い、感謝する。
----	--------------	-----------------------------

組織については、指導部を「学びづくり部」と「心づくり部」の2部とし、それぞれ次のような取組を行う。「かがやく子」の3つの姿が多く見られるよう、そのために必要な4つの資質を意識して育てていく。同時に「日本型教育」の3本柱「知・徳・体」をそれぞれの部の取組により調和的・一体的に育てていきたい。

なお、昨年度までは「学びづくり部」と「仲間づくり部」の2部構成であったが、「仲間づくり」や「協働」は目的ではなく手段であると考え、より育成すべき教育の柱を明確にするために、本年度からは「心づくり部」とした。

また、校内研修は授業研修とし、「授業は学校教育目標の具現化の最も大事な場面」と位置づけ、「学びづくり部」が主体となって研修を深めていく。

(1) 指導部全体の取組

互いの成長を称揚しあう「きらりんカード」の実施

ア 学びづくり部の取組

【取組のテーマ】

とことん学ぼう 粘り強く学ぼう

- (ア) 自分を見つめ、自分で計画して進める「自学」の実施
- (イ) より深い「自分学び」を目指した「自学ノートを見合う会」の実施
- (ウ) より高い「学びの集団」を目指した「授業を見合う会」の実施
- (エ) 感性を育むための読書活動の充実

イ 心づくり部の取組

【取組のテーマ】

自分も、相手も、大切に。

- (ア) 「輝」の目標に沿った道徳授業の実施
- (イ) 創意工夫を大事にした「係活動」の充実
- (ウ) 学級をよりよくするための、計画的な学級会(話し合い活動)の実施
- (エ) よりよい学校づくりを目指し、児童の話し合いで進める児童会活動(かがやき会議・委員会の活動)の推進
- (オ) 感性と奉仕の心を育む「見つけ掃除」の実施
- (カ) 上級生から下級生へ伝えることを大事にした「表現活動」の実施

(2) 教務部・事務部の取組

ア 多様な学びを可能とする午前5時間日課の実施

＊4・5時間目を75分授業にし、多様な学びを可能とする

イ 感性や表現力などを磨くための「朝読書」の時間の確保

ウ タブレット活用による、すぐに確認できるようにするための、学校運営に関わる資料や情報のPDF化

6 学校経営目標(校長としてどのような経営をしていくか)

【学校経営目標】

「河城小学校でよかった」と誰もが、実感できる学校づくり
(児童が、保護者・地域が、教職員が)

人間尊重の理念を基本とし、上記学校経営目標を実現できるよう、3つの経営の柱を掲げ、尽力していきます。

(1) 経営の3本柱(上記のような経営をしていくために大切にすること)

ア 安全・安心

(ア) 人権尊重とインクルーシブ教育の精神の浸透

- ・ 道徳授業の計画的な実施
- ・ いじめアンケート・教育相談の実施と早急な対応
- ・ セクハラ対策委員会委員との情報共有と対応
- ・ 交流学級への特支学級児童の授業参加に関わる段階的レベルアップ
- ・ インクルーシブ教育に関わる情報発信や指示

(イ) 安全教育[生活安全・交通安全・災害安全]の推進

- ・ 児童による安全活動の推奨(働きかけ)
- ・ 通学区会における危険箇所の把握と対策
- ・ 防災講話の実施
- ・ 訓練後の安全学習の実施

(ウ) 危機管理体制と意識の向上

- ・ 「危険」に即対応できる実行力ある体制づくり(教頭を核とした指示系統の確立)
- ・ 実に生きる訓練の実施
- ・ 施設、通学路の安全点検の実施
- ・ 効果的な定期的安全点検の実施(点検箇所の固定化を避ける)と即対応
- ・ 毎日の校内巡視
- ・ 不祥事根絶に向けた「3ゼロ+2」の確認と意識の紹介、思いの共有

(エ) 教頭、教務、生徒指導、養護教諭をHub(ハブ)とした情報共有体制の強化

- ・ 本部会、教務会での情報共有と対応の指示、確認
- ・ 毎日の教頭との情報交換と対応の指示、確認
- ・ 養護教諭による、毎日の報告と対応の確認
- ・ 教務を中心とした、教育課程の計画的運営と変更への対応
- ・ 生徒指導主任を中心とした、生徒指導案件への早期対応

(オ) 相談体制の強化と地域家庭への確かな情報発信

- ・ アンケートや教育相談の実施(児童、保護者)
- ・ 確実な家庭への連絡
- ・ HPによる学校教育活動の紹介・発信
- ・ P T A会長及び組織との確実で丁寧な情報共有
- ・ 地域人材を講師として招聘

イ 活力と快適さ

(ア) 「三方良し」の精神の浸透(気配りのすすめ)

- ・ 「自分良し」「相手良し」「周り(みんな)良し」を多くの場面で紹介
- ・ 職員から児童への伝達機会の促進
(朝の会、帰りの会で。行事において。児童会活動において。等々)

(イ) 教職員とその家族の幸せを大事にした対応と意識づくり

- ・家事を優先した年休等を安心して取得できる雰囲気づくりとフォロー体制の確立
- ・職員と家族の誕生日における定時退庁の促進

(ウ) チャレンジできる風土づくり

- ・児童のアイデアを引き出し、実現する児童会活動・特別活動の充実
- ・目標やねらいを明確にし、それを達成するためにより効果的な手だてを、教職員の持ち味を発揮したアイデアで創り出す、「チャレンジできる教師集団」の確立

(エ) 職員の将来の願いとキャリアステージを考慮した人的配置

- ・人事における希望調査と、本人の思いや願いを大事にした配置
- ・人事面談におけるキャリア目標の共有

(オ) 「学舎」での取組による教職員の雑務の軽減

- ・学校の環境に関わる支援依頼
- ・授業や行事に関わる支援や講師依頼

(カ) 適切で計画的な予算の運用

- ・経営の3本柱と学校教育目標実現に向けて積極的な予算運用
- ・執行状況の確認と指示

ウ 教育の質の向上

(ア) 新学習指導要領に沿った指導と評価の一体化の推進

- ・個の学びと評価(見取り)に焦点を当てた校内研修
- ・個の考えを書く(描く)ことを位置づけた授業展開

(イ) 自ら判断したり、努力したり、悩んだり、考えて動いたりする場面づくりや経験の重視

- ・授業における個の時間を確保した授業展開
- ・行事や委員会活動、係活動などにおける場面づくり

(ウ) やらされる家庭学習から自分からやる家庭学習への転換

- ・授業と家庭学習のリンク(授業のための家庭学習、家庭学習を生かした授業づくり)
- ・各自のキャリアプランの実現のための家庭学習

(エ) 上級生から下級生へ教える(伝える)場面の創出

- ・下級生による上級生の授業参観(上級生のプライドを高める)
- ・家庭学習について上級生から下級生への助言場面づくり
- ・行事や委員会活動などにおける交流場面づくり

(オ) 研究校への視察研修と職場への還元

- ・県内外の研究校への視察研修の実施
- ・学舎の授業参観交流の実施(児童の次のステージ[中学校]の授業参観)

(2) 経営指標(経営状況の達成度を測る指針)

学校経営目標の達成度を次の指標で判断したい。

【指標】

- ・自分の「良いところ」が言える児童 90%
- ・1年前よりも自分が成長している・力が付いていると言える児童 90%
- ・「働きやすい・働きがいがある」と答える職員 90%
- ・学校は子供の個性を大事にし、育ててくれていると感じる保護者 90%

7 グランドデザイン(別紙)